

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科技工士学校  
2022年度 学校関係者評価委員会 議事録

日 時 2022年6月2日(木) 15:00~17:00

会 場 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校  
東京都大田区大森北1-18-2 03-3763-2211  
※オンライン開催(ZOOMミーティング)

参加者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	中村 八大	株式会社テクニカルセンター	取締役 技術部長
保護者代表	水林 登	歯科技工士科 I 部	在校生保護者
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	校長
地域代表	中島 穰	公益社団法人 東京都大田区大森歯科医師会	監事
業界関係者	南部 哲男	一般社団法人 日本歯科技工所協会	理事長

【学園・学校関係出席者】

中村 道雄 学校法人東京滋慶学園 理事長  
小川 昭久 学校法人 東京滋慶学園 理事  
福原 達郎 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 学校長  
関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長  
今井 リカ 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 事務局長  
植田 慎司 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 教務部長  
富野 浩子 新東京歯科技工士学校 学科長  
大原 良子 新東京歯科衛生士学校 学科長  
西村 充剛 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 キャリアセンター長(書記)

議 題 <会議の概要>

(進行：教務部長 植田)

1. 開会挨拶
2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
3. 本委員会の主旨説明
4. 2021年度の自己評価項目と評価内容の説明
5. 2022年度の重点目標と説明
6. 質疑応答・意見交換
7. 閉会挨拶

## 1. 開会挨拶（学校長 福原）

### 【委員の方へお礼の挨拶】

今年から2024年までの3年間、政府は“人に対する投資をする”方針を打ち出している。歯を治療し健康にしていく方針である。歯科業界の人材育成する養成校として、本日まで出席の委員の方の協力を得てこの問題に取り組んでいきたい。

## 2. 評価委員会のご紹介並びに学校側出席者の紹介（教務部長 植田）

※2022年度委員会名簿を基に、オンライン上にてお一人ずつ自己紹介があった。

## 3. 本委員会の主旨説明（評議員 小川）

2013年から始まった職業実践専門課程が専門学校の教育に関する一定の質を担保している学校に業界の方、保護者などの利害関係者から評価されることで称号を授与することを目的とする。この課程を取得している専門学校は全体の約3分の1。かなり厳しい基準だが、滋慶学園は約9割が認可されている。まず学校なりに自己評価する。それに対し評価や提言をいただき、翌年の学校教育に反映させる。そのため学園でもこの委員会は重要だと位置付けている。

## 4. 4. 2021年度の自己点検・自己評価 評価内容の説明（副運営本部長 関口）

昨年度の自己点検評価を、委員の皆様から2次評価をいただくため、改めて説明する。学内自己点検自己評価委員会で実施した内容について、委員の皆様にお送りしている。

- ・自己点検、自己評価表(1次評価) 65項目の小項目に対して評価(5段階評価)
- ・学校関係者評価表(2次評価) 全11の大項目に対して評価(3段階評価)

※お手元の資料は、1次評価の内容を要約・変換した内容  
評価点とともに、各委員からのご意見をご記入いただきご返送いただく。  
委員の皆様からの平均点数とご意見、議事録を本校HPにて情報公開する。

### 【自己点検・自己評価の内容に関する報告と解説】

新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校の沿革について説明。

1980年に開校して以来、40年以上になる。

歯科技工士学校は、2021年度歯科技工士科Ⅱ部の募集を停止し、午後部への名称変更とした。

※以下、特段の解説を行った箇所のみ記載

### 1) 教育理念・目的・育成人材像

滋慶学園は他分野を含めて80校の専門学校を運営している。グループ校では、歯科技工士3校、歯科衛生士7校、計10校の歯科関係教育機関を運営している。学園グループ全体で、「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションを掲げ「実学教育」「人間教育」「国際教育」の3つの建学の理念をもとに業界に人材を輩出している。また、中長期的な視点を持ち、教育の質向上を図っている。

## 2) 学校運営

事業計画を定め、運営方針を掲げている。組織目的から収支予算について単年度だけでなく5か年の計画をたてている。学校運営については運営会議および学科会議で共有を行っている。

### 運営組織

滋慶学園グループ 東京滋慶学園 学園グループや法人毎に理事会や分野別会議などの意思決定機関を用い、運用している。学校内でも運営会議を定め開催している。

教職員についてもコンプライアンスを遵守した組織体制をとっている。

## 3) 教育活動

事業計画書に基づいて中長期的な計画を立てて運営している。その計画のために学校運営を組織化している。単年度ではなく、2022-2026年までの事業計画をもとに学校運営を行っている。意思決定システムは月に2回運営会議を実施、学部会議を実施し適正な人数でコンプライアンスを遵守し運営している。

教育指導要領は教員と学生の“契約書”と位置付け、学生の到達目標を明記している。

Z世代の価値観の違いに対し医療にふさわしい態度を身につけているかという項目に対しその評価は2とした。まだ努力をしている段階と考えている。養成校として必要なカリキュラムと学校独自カリキュラムをおりませ、国家試験対策だけでなくキャリア教育にも注力している。成績評価、修了認定については「進級・卒業判定会議」を開催し適正に行っている。

## 4) 教育成果

就職内定率 100%

キャリアセンターを中心に、第1専門職への就職支援をしている。

国家試験合格率（技工）96.3% 全国平均は上回ったものの、100%合格には至らなかったため課題が残った。コロナ禍にあってもハイブリット型で実施しており、衛生士学校では成果が出ている。

卒業生についてはSNSを活用して情報発信、情報収集をしている。

## 5) 学生支援

就職：キャリアセンターを中心に個別で就職サポートしており、開校以来100%の就職率である。

退学率低減について

各学科で目標数字を掲げて学生支援をしている。コロナ禍による留学生の帰国と、メンタル面での不調による学生が増加したため、退学率が昨年と比較して上昇した。要支援学生の対応については、研修を通じて教職員の研鑽とともに、学生カウンセリング室を学内に設置している。留学生の支援についても専属のチームを中心に行っているが更に強化する必要がある。歯科衛生士学校の好事例を取り入れ次年度改善をはかる。

卒業生について

卒業生の生涯就職支援体制として、卒業生も学内求人情報が検索できるシステムがある。今後は、卒業後の再教育プログラムの開発をキャリアセンターを通じて取り組んでいく。

## 6) 教育環境

教育機器、設備については最新機器を整備している。館内はwi-fiが完備され、各教室はデバイス充電ができるようにしている。これらにより、自宅で学習環境が整いにくい学生も、教室開放にて学習する環境

を提供することができている。

#### 国際教育について

渡航が困難な状況につき、オンラインで実施した。海外の企業と SNS でつなぎ国際教育に取り組んだ。防災訓練については、年に 1 度防災訓練を実施している。

#### 7) 学生の募集と受け入れ

学生募集活動は「募集要項」をもとに適正に行われている。

入学選考については、公正な評価のもと受け入れをしており、資格取得に必要な「欠格事由」についても入学前に説明している。

#### 8) 学校の財務(財務情報の公開)

入学時の必要学費については、総額を「募集要項」で明文化している。

事業計画をもとに運営しており、財務について監事の監査および公認会計士による監査も受けている。

年度毎の事業報告書・財産目録・財務諸表を、学校の情報公開ページにて公開している。長期で予算計画を行い、適切な運用が出来ている。

#### 9) 法令等の遵守(学校情報の公開)

運営状態の情報公開をしており、文科省・厚労省の設置基準を満たしている。

職業実践専門課程としても認定されている。学校関係者評価委員会の開催等についても情報公開している。

個人情報管理は外部機関を通じて国際規格の承認を得ている。学校関係者評価委員会と教育課程編成委員から、意見をいただき教育環境の見直しを図っている。

#### 10) 社会貢献

要望に対して備えはあるが、コロナ禍の影響により実施できていない。

#### 11) 国際交流

国際交流 国際的な教育を取り入れグローバルな視点をもった人材を育成することを目的としている。

コロナ禍の影響にあったが、オンラインにて実施した。ベトナムやドイツで活躍する卒業生の講演交流会などを行った。

### 5. 2022 年度の重点目標と評価に関する説明(事務局長：今井)

最重要課題は、入学定員の充足である。年々歯科技工士を志望する入学者は減少し、現在全国で約 800 名程となっている。歯科技工士のなり手を増やすことは、社会貢献であるにとらえている。

2022 年度入学者数：105 名であり、前年度の 134 名から減少している。コロナ禍の影響で留学生が減少しているが、全国の歯科技工士養成所では最多。本学園には全体の 1/4 が入学している。継続して技工士の職種認知拡大を関係企業と連携して、推進していく。

### 6-1. 質疑応答・意見交換

(森 委員)

歯科技工士は手先の器用さもポイントになると思われるが、不器用が理由であきらめる学生はいるのか。

(富野) 実習に自信がない学生はいる(教員からみて問題ないレベルでも)。自信を持たせるためのサポートを本校では実施している。入学前においては、体験入学で適性をみている。

(水林 委員)

教育活動の評価について、3 (優れている) ではなく、2 (適切) なのは何故か。

(今井) 本学園では、キャリア教育にこだわっている。目標とする職業人像に近づけるためにはまだまだ不足していると感じているため、評価は2 (適切) にしている。産業界から求められる人材の輩出を目指していきたいと考えている。

(南部 委員)

・現状、歯科技工士は患者さんを見たことがないまま臨床にでて技工物を作っている。(臨床実習がない、または歯科医院での立ち合いがない職場で多くの歯科技工士が勤務しているため)

在学中に、歯科衛生士の実習を見学させる等の教育をすることができないか。

(冨野) 本校では、歯科衛生士学校との合同実習を実施し自身の患者体験をさせる機会を設けている。

今後はご意見をもとに、実際の患者さんと関わる機会を教育に取り入れていきたい。

(南部 委員)

・求人先の社長を対象に、学校の教育理念や教育内容について知ってもらう機会を設ける必要があると考えるがどう思うか。

(西村) 求人先については、来校による業界ガイダンスの実施をして現状についてお伝えしている。また就職活動時には、必ず歯科技工所を見学させてから受験させる流れを作り、ミスマッチングを防止する試みを行っている。

## 7. 閉会挨拶 (中村理事長)

自己点検、自己評価を情報公開できない学校がある中、本校は情報公開できている。職業実践専門課程の認可を受けている専門学校は日本全国の約 3000 校のうち 1000 校しかない。それも委員の方がたの協力のおかげだと考えている。順調に運営できることについて、本日のご参加について感謝をお伝えし閉会の挨拶とした。

以上

---

## 評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みとして実践していく。

とりわけ、2021 年度の学校関係者評価並びに委員の意見を踏まえ、昨今のコロナ禍に象徴されるような、感染状況により学習方法を柔軟に変更することが求められた際に、業界の求める知識・技術をはじめ、本来 インターンシップなどの学外実習で身につくような現場対応力やコミュニケーション力についても学内実習で習得できるような、多様性のある学習方法を開発・実践することで、より質の高い教育への改善を図る。

---